

2021年度以降のU18/U16陸上競技大会の種目設定について

日本陸上競技連盟では、2018年11月に「陸上競技の普及」と「競技者の育成・強化」の両面を見据え、日本における陸上競技者育成の方向性を具体的に示す「競技者育成指針」を策定した。この指針に基づき、本連盟主催のジュニアカテゴリーの競技会のあり方を抜本的に見直している中、2021年度からのU20日本陸上競技選手権大会が、日本選手権選手権大会(シニア)と同日開催となった。このカテゴリーのすみ分けに伴い、U18陸上競技大会及び、U16陸上競技大会を同日開催することとし、実施種目、及び出場資格について検討した。

【種目設定における要点】

- オリンピック種目にこだわらない。
- 走跳投種目全般にわたるトレーニングを、段階的に開始する仕組みを盛り込む。
- 単一種目に特化した強化に偏ることなく、種目間トランスファーを考慮する。
- 2020年度全国中学/高校陸上競技大会、および全国高等学校陸上競技選抜大会のエントリーシステムを応用し、競技者育成指針に沿ったジュニア競技者が全国大会へ出場する仕組みにする。
- 競技運営の負担を考慮する。

【U16種目】

・基幹種目

「全国大会」としての盛り上がりや、競技者のモチベーションを保持する為、基幹種目を設定する。基幹種目はオリンピック種目とする。

⇒100m、走幅跳、走高跳、砲丸投、男子棒高跳

・接続種目

U18へのスムーズな移行を目的とした種目を設定する。

⇒150m、110mJH、100mYH、三段跳、1000m、ジャベリックスロー(ターボジャブ)、円盤投

・普及種目

U18への接続種目の普及や、各地域の指導者、若手指導者の養成も配慮し種目を設定する。

⇒女子棒高跳、4×100mR

※申込資格種目②を設定する目的は、本大会の参加者のみならず、この大会を目指す幅広い競技者のトレーニング内容に変化を与えることである。

【U18種目】

・シニアカテゴリーでの課題解決に繋がるよう、エントリーの条件として実施種目(申込資格種目①)の他に申込資格種目②を設定する。申込資格種目②の記録を調整することによって、本大会の参加者のみならず、この大会を目指す幅広い競技者のトレーニング内容に変化を与え、他種目への挑戦(種目間トランスファー)を促す。